

平成30年度 第6学年 授業改善推進プラン

文京区立駕籠町小学校

	現在の授業・学力調査等についての分析・検証結果	授業改善に向けての具体的な方策	補充・発展的指導の計画	成果○と課題●
国語	<ul style="list-style-type: none"> 相手の意図をとらえながら読み取ったり、目的や意図に応じて内容を整理して書いたりすることに課題がある。適切に使える語彙が少なく、内容に合わせた表現を用いて文章を書くことも難しい。また、全体の前でのスピーチなど、話すことについて苦手意識をもっている児童も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の要旨をまとめたり、それをもとにグループで話し合ったりする学習活動を多く設定する。 日常の授業から辞書を活用するとともに、作文、報告文、意見文など、目的に応じた文章を書く活動を工夫する。 スピーチの活動方法や内容を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ学習等も取り入れ、知識・理解を深める学習活動を行う。 ドリル学習を生かし、基礎・基本の徹底に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉に注目して丁寧に物語の読み取りをしたことで、書き手の意図を考え深く読み取ることができるようになった。 ○書く活動や話し合い活動を多様に設定したことにより、自分の考えを言葉で伝える力が伸びた。 ●適切な言葉を用いて、正しい日本語で文章を書くことが苦手な児童がまだ複数名いる。個に応じた書く活動の充実を図る必要があった。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料をよく読み取り、学習した内容をノートや新聞に工夫して書くことができる児童は70%ほどである。またワークテストの結果や授業から、知識は豊富だといえる。しかし社会的事象のそれぞれの関係を正しく理解し、それに基づいて思考することができず、学習のめあてに合ったまとめが書けない児童も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象同士を関連付けさせたり、関係図にまとめて吹き出しをつけたりする学習活動を行う。 まとめがよく書けている例を紹介し、考える視点にも気付かせることで、思考力や表現力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 博物館や資料館などを利用したり、授業に関連する新聞などの資料を提示したりしながら、発展的な学習を行う。 教科書や資料集を用いて、基礎・基本の徹底に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図や板書を工夫し、考える視点を明確にした学習を進めたことにより、学んだ知識を活用して考えることができるようになってきた。 ○教科書や資料集以外の資料を積極的に読み取り、活用したことで、様々な知識や事象を関連付けて考えることができるようになった。 ●知識を定着させるため、学習の振り返りや繰り返し学ぶ機会を充実させるとよかった。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシック診断シート4月結果正答率80%以上の児童50% 平均正答率75.9% 東京ベーシックドリル診断シート7月結果正答率80%以上の児童66% 平均正答率80.7% どちらも満点はなし。 1学期ワークテスト思考力を見る問題70点以上の児童94%、技能97% 5年の内容では「単位当たり量」と「人口密度」の計算が習得不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対しての意欲をもたせるために、生活の中での算数を意識させたり、問題文を分析するための解法の手順を確実に身に付けさせる。 自分の解き方を説明する場面では、図や算数的用語など意識して使うように指導する。 ペア、グループでの話し合いを取り入れ、自分と友達の考えを統合したり、さらに新たな考えに気付いたりして問題解決をしていく。 ケアレスミスを減らすため確認を意識付ける。 ノートは自分で工夫してとることを指導する。「吹き出し」などを使ってポイントを書き入れたり、感想や友達の考えに対する自分の考えを書き入れたりして、次につなげる指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 発展コースの児童には自力解決を目指すためにヒントを提示する。 発展コースでは問題作りをしてみんなで解き合う。 補充の必要な児童には前学年の内容を適宜復習させる。特に小数のわり算の筆算では計算の流れを意識させ、丁寧に筆算を書くことを指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○くじらコースの児童は1学期の頃よりも根気よく課題に取り組めるようになった。 ○進んで発表したり、自分の考えを説明できるようになった。説明の仕方など上手な児童の良い点を取り入れたり、図を使ったりと工夫できるようになった。 ○前学年の復習を少しずつ取り入れながら学習を進めているので、定着が進んだ。特に計算力はアップした。 ○とびうおコースは自力解決の力がついてきた。自分のペースで学習に取り組み、プリント学習も自主的に進められた。 ●問題文の読み取りが不十分な児童がいる。文を単文にして読み、図を使って課題を解決するスキルを身に付けさせる。

平成30年度 第6学年 授業改善推進プラン

文京区立駕籠町小学校

理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題を正しく捉え、根拠を明確にして観察や実験をし、考えて学習を進めることに課題がある。 ワークテストの結果や授業の様子では、調べたいことを正しく実験・観察する技能の習得が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験結果をグラフや表で表し、そこから考察する場面を多く設定することで、客観的なデータとしての結果と考察・まとめの違いを確認する。 実験方法を考えた後、器具の名称や正しい使用方法、観察の際の注意点などを確認する時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験・観察などの体験的な活動と知識を結び付け、学習内容の定着を図る活動を取り入れるようにする。 正しい言葉を使えるように、教科書などで基礎・基本の徹底に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの単元で、結果を整理し、そこから考察する学習を進めたことにより、結果を正しく捉え、その妥当性を意識してまとめられるようになった。 ●知識や実験・観察の技能の定着について、個人差が大きかった。繰り返し指導する必要がある。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 全員が正しい音程で歌うことができる。 全員がリコーダーの運指をが正しく理解している。 [共通事項]と曲想とのかかわりについて考えながら聴いたり演奏したりすることができる児童が約半数いる。 鑑賞では、知覚・感受したことを関わらせながら記述することにやや課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現活動では、音楽表現の工夫をする観点を明確にした発問を心掛け、工夫した結果が児童に分かるようにする。 鑑賞の学習では、知覚・感受したことをペアやトリオで交流することを通して音楽用語を適切に使いながら活動する場を毎時間設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動やペアの活動の際、自分の考えを伝えるよう助言することで、表現したり聴いたりする活動への意欲を高める。 音楽表現の質が高まるような声掛けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌唱では、歌詞の内容から曲想について考え、音楽表現の工夫をする活動を充実させることができた。 ○鑑賞のまとめの紹介文では、音楽の構造と曲想とのかかわりについて、自分の考えをまとめることができるようになった。 ●器楽の指導における個に応じた音楽表現の質を高めるための声掛けの方法を、工夫する必要がある。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 自分の表現したいことやつくりたい作品のイメージを明確にもち、すすんで作品づくりに取り組むことができる児童が多い。 制作の手順や時間配分など、見通しをもって計画的に活動することが難しい児童が10%いる。 鑑賞では、作品のよさや感じ取ったことを具体的な言葉を使って表現することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りカードを用いて、毎時の学習のねらいの達成度や進度について振り返らせ、自分なりの目標を設定しながら計画的に活動できるようにする。 毎時の学習で要点となる事柄をキーワードとして提示し、鑑賞の際には、それらのキーワードを振り返りながら、作品を観賞する視点や語彙を得ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> より主体的、意欲的に作品づくりに取り組むことができるよう、多様な材料や表現技法から自分で選択、決定できるような応用的な活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時のめあてや達成すべき課題を、具体的な言葉を用いて段階的に分けて提示することによって、制作の手順や時間配分など、見通しをもって活動することができるようになった。 ●友達の表現に関心を持ち意欲的に鑑賞することはできるが、作品の造形的なよさを自分の感覚を通して捉え、感じたことを適切な言葉で表現することに課題が残った。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 80%の児童が、基礎的な知識や技能を身に付けている。しかし、学習したことを自分の生活に生かすことは十分にはできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを生活の中でどのように活用するのか、具体的に考える活動をする。 家庭との連携を図り、学習したことを学校や家庭での生活の場で生かすことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 裁縫では、アプリケや刺しゅうなどの工夫ができる教材を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭との連携を図ったことにより、家庭科で学んだことを生活の中で実践しようとする態度が身に付いてきた。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動に関する意欲は高く、友達と協力して試合や運動をすることができる。しかし、運動に合わせて取り組みを考え工夫することは十分にはできていない。また、意欲的に取り組む種目に偏りが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを活用し、個人が運動に合わせためあてをもちながら、活動に取り組めるようにする。 ボール運動や陸上運動だけでなく、様々な運動に親しませ、楽しさや、めあてを達成する充実感を味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の中で運動量が増えるような働きかけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な運動に親しみ、めあてに応じて友達と協力し、安全に留意して運動をすることができた。 ●学年の後半にかけて、日常的に運動をする習慣が減少する傾向が強まったことから、運動量をより一層確保し、基礎体力を育む指導をしていく必要があった。